

嘉永
159

御啓の趣地方の巡遊し

京汲新聞紙に云く

閣下は主愉快を感し

申す商及過るる因

下九日也歸京

益々勇健なる事國家

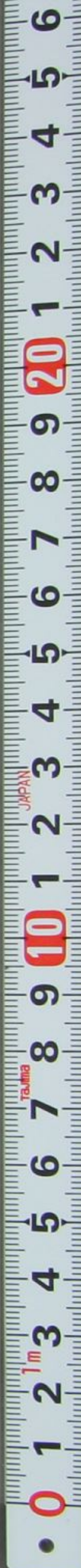
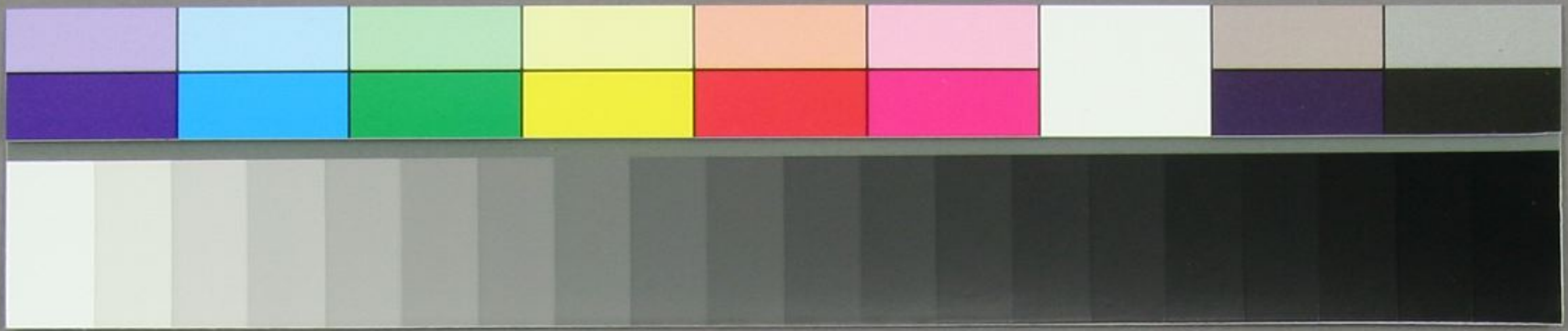
の爲め幸なれども

一ヶ月と経つ

新田閣組織困難之趣

は内外多事の時とあり

後迄之趣を以て自ら期す



下九日少録

毎日の健康は国家

の為めなれども

一月と経つ

新田組組織困難之趣

此内外多事の時とあり

政治の面を以て自ら期する

の先達諸氏より

のせら給ふや

予も政府の有様

之を以て人の口を

走し

宿務を以て

は抑臣分の忍み

多や憲法の言果

安んずるに概歎

を斯の如く種々の

由

安んずるの慨歎のまじり
を斯の如く種々の情状
に拘束せられ左に
右の昭節孫を定見
なく遂に今日の如く窮
窮を醸成せしは國家
の爲め之を哀れむべし
事なりし故に窮乏の
餘或は累と
皇室に及ぼすもの
悲しありし直彬の言も
眞意をなす可なり
尊兄は際昔の如く
少考を慮救治の由を
知し所禱する之盡

忍きありし直彬の家也

直彬念ふ所の可なり

尊兄は際嘗て深

く考慮政治の由は

却て所禱より之盡

草々 杉吉様

六月三日

直彬

大隈大宛研北

多々少一信也

丙午